

# 容態急変でドクターヘリの緊急搬送

「今は、前のように元気に農作業をしています。あの時は、本当に死んでしまうのかと思いました」と振り返るのは、栃木県小山市鉢形で農業を営む坂本富男さん（70）。平成29年12月20日に救急車で城西病院に搬送され、すぐにドクターヘリで筑波大学病院に転送して緊急手術を行い、一命を取り留めました。「救急車で城西病院に運んでもらって本当に良かった」と話す坂本さんは、その後月に1回、城西病院に通院し、元気な姿を見せていただいています。

平成29年の12月20日、いつものように収穫したキウイを箱に詰める作業をしていた坂本さん。急に腰に痛みを感じ、気を失ってしまったといいます。

すぐに119番し、救急車で城西病院に搬送されました。整形外科で診察をしていたところ、担当していた金澤理英子看護師が、坂本さんの急変に気付いて、すぐに救急処置室に移し、総合内科の医師を呼び、治療に当たりました。

「箱詰めをしていた時に、腰に半端でない痛みを感じ、気を失いました。救急車の中で気が付き、城西病院に運ばれました。本当に助けてほしいの一心でした」と振り返る坂本さん。金澤看護師は「後から駆けつけてきた息子さんに気を失ったと聞きました。最初は、急性ぎっくり腰の疑いで診察していましたが、診察を待つ間に腕がだるいと坂本さんが訴え、顔色が悪くなりました。腰が痛いと訴えられていましたが、診察では腰を上げることができました。顔色が悪くショック状態になり、これは心臓か内臓の出血の可能性がある」と話して



ました。坂本さんは腹部大動脈破裂と分かり、水戸医療センター茨城県ドクターヘリを要請。ドクターヘリで筑波大学病院に転送、緊急手術が行われました。「ヘリコプターの中で、死にたくないと言っていました。看護師さんから『助かるからね』と励まされました」と振り返る坂本さん。緊急手術し、22日間入院。40度近い熱が続き、薬の副作用で苦しい日々が続いたといいます。

約2カ月後、診察の時に再会した坂本さんと金澤看護師。「元気になってよかったね」と声をかける金澤看護師に「ありがとう」と坂本さんは微笑んでいました。

平成30年2月21日



「今は元気に働いています」と坂本さん